

A) 積極的に防除作業を行い、島内からの排除を目指す種類

センダンキササゲ

ノウゼンカズラ科 *Radermachera sinica*

原産地：台湾、中国南部～東南アジア

特徴

日当たりの良い路傍などに生える成長の早い常緑高木。成長すると高さ 10m 以上になる。らせん状にねじれた果実を大量につけるのが、最大の特徴。奄美大島で急激に分布を拡大しており、注意が必要。

葉 : 和名にセンダンと入るとおり、センダンの葉を思わせるような葉。2 回奇数羽状複葉。長さ 20～70cm 程度になる。表面には光沢がある。

花 : 初夏、枝先に長さ 8～12cm のラッパの様なかたちの花をつける。花は白～黄白色。

繁殖 : らせん状にねじれる特徴的な果実の中には小さな種が無数に入っている。種には翼があり、風や自動車等によって拡散している。挿し木でも簡単に増えるため、駆除する際は伐採した断片にも注意が必要。

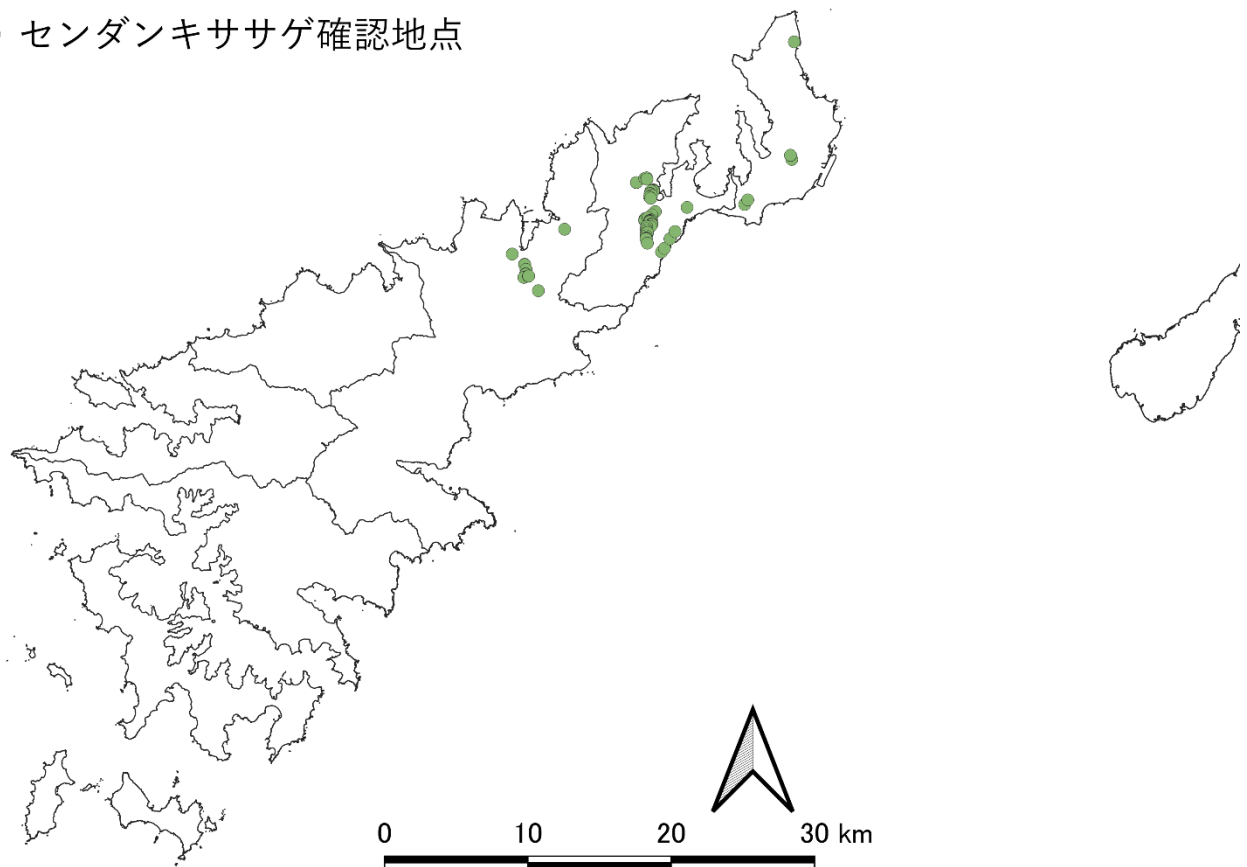




影響 : 高さ 10m 以上になることから周囲の景観を一変してしまうほか、在来植物との競合が懸念されている。

侵入状況 : 始めに侵入したとみられる龍郷町を中心に急激に分布を拡大している。笠利町や名瀬市街地で点々とみられる他、住用でも局所的に侵入が確認された。このまま放置するとギンネムやアカギの様に島中に蔓延することが危惧される。

● センダンキササゲ確認地点



対策状況 : 2023 年 11 月に数カ所で除草剤を用いた試験的な駆除作業を行った。より効果的な防除方法の検討が求められる。

防除のコツ：高木になると防除が困難になるため、できる限り小さい内に対応することが求められる。種子が小さく風によって飛ばされやすいため、種子が出来る前の時期に作業することが望ましい。引き抜きが出来る株は出来るだけ根から引き抜き、引き抜きが難しい場合、ノコギリ等で伐採し、切断面に除草剤を塗布するなどの方法が考えられる。